

た。相沢はこの年7月3日死刑に処せられた。「仙台市史」第7巻P328に『昭和8. 10.7銃殺に処せらる』とあるのは誤りである。相沢は伊達家の旧家臣相沢兵之助の長男として、明治22年9月9日父の任地白河で生れた。仙台地方陸軍幼年学校出身。本籍仙台市東六番丁、当時の住所広島県福山市御門町157。享年47。昭和21年1月3日大赦令により大赦。

- 注(2) 昭和11年2月26日、東京市内で起った陸軍部隊の反乱事件。陸軍部内の皇道派・統制派の激しい対立の中で、この年の初め、皇道派青年将校の多かった第一師団の満洲派遣が発表されると、村中孝次らの急進派は、渡満前に決起することをきめ、秘密裡に準備を進め、20余名の将校を中心に、2月26日早朝クーデターを起した。彼等はそれぞれ所属部隊の下士官兵千四百名を出動させ、数隊に分れて首相官邸その他を襲い、重臣・高官を殺害した。しかし、彼らが目ざした反乱による革新政権の樹立も成らず、国民の支持もなかったため、事件発生後4日目の29日朝帰順した。村中孝次は、元陸軍大尉、決起趣意書の起草者で、首謀者の一人として軍法会議の裁きを受け、翌年8月19日死刑を執行された。本籍札幌市十七条西五丁目、当時の住所中野区鷺宮4の1021。仙台地方陸軍幼年学校出身。明治36年10月3日生。享年35。昭和21年1月3日大赦令により大赦。この事件後、軍部の政治的発言力は一層強大となり、軍国化への危険を増大させて行った。〔相沢事件及び二・二六事件に関する最も詳細な資料に「二・二六事件秘録」(林茂・伊藤隆・松沢哲成・竹山護夫・山口利昭・有山輝雄共編)全4巻がある]

注(3) 浄土宗。宝嶺山源樹院と号する。慶長9年〔1604〕3月24日開山と伝えられる。寺の本堂の右手に樹令350年の名木「やしおかえで」がある。

注(4) 曹洞宗。大蔵山と号する。永正18年〔1521〕開山、白河にあったが、慶長6年以後仙台の現在地に移ってきた、その年月日不詳。伊達家の外護は受けなかった。

資料 仙台市史第7巻

二・二六事件秘録(林茂〔等〕編)

74 「てんよ」は仙台の方言か

問 「てんよ」とは「ところてん」のことをいう方言ですか。

答 「全国方言辞典」(東条操編)に『<てんよ> 心太。ところてん。仙台』とある通り、ところてんを仙台地方ではてんよといいます。この語の語源を探求したものに「仙台方言考」(真山青果)

があり、それには次のように記しています。『心太（ところてん）を仙台にて、てんよと云ふは、按〔おも〕ふにその売声より出でたるなるべし。安永頃〔1772～1781〕の江戸風俗を記せる東風日記〔あずまぶりにつき〕に、心太売の呼声を「ところてんよ、テンヨ」とあり』。てんよの仙台地方の用例に次のようなものがあります。「富谷町誌」に『名物テンヨ 奥州街道が開通し⁽²⁾……旅人の往来が盛んであった。大清水の白石家は邸前の泉から湧出する清水を用いて「テンヨ」を製造して旅人に販売した。また同部落の渡辺家でも「テンヨ」の販売を行っていたが……同様に大正の末期に廃業した』。また「仙台地名考」（菊地勝之助）に『鹿子清水……昔は夏の節になる⁽³⁾と泉のほとりに茶店が出て、テンヨや水団子などを商い、納涼の人々で賑ったとも伝えている。…』。

注(1) てんぐさを煮て寒天質を抽出し、冷却してゼリー状としたもので、これをところてん突きで細線状に突き出し、酢・醤油等で食べる。わが国では海の幸の一つとして古くから一般に愛好され、正倉院御物文書中にも、写経生への配給食品として「心天」の文字が記されているものを見る。上代は古留毛波〔こるもは〕とも古々呂布止〔こころふと〕ともいったが、これに「心太」の文字を当てるようになってから「こころたい」から「こころてい」となった。後更に「こころてん」または「ところてん」に転化したものとされている。

注(2) 昔は、仙台から吉岡までは泉が岳の山根を辿る古街道しかなかった。元和9年〔1623〕政宗は現在の4号線となった新道を開いた。いわゆる「奥道中」の始発部分であって「富谷町誌」の記すように奥州街道と称するのは正しくない。〔奥州街道は厳密には、下野の白沢から奥州白河までの道中奉行支配の街道を指す。一般には日光街道の千住、宇都宮間の街道をも加え、奥州街道と呼ばれていた。〕この新しいルートに七北田と富谷の宿場が置かれた。富谷は新たに設置されたので「新町」〔しんまち〕と呼ばれ、附近の熊谷と旧町下富谷から63戸移され、「富谷茶のんで味は吉岡」と奥道中歌にも唱われた。これに対し旧道の旧宿駅鶴巢の下草〔しもくさ〕を元町〔もとまち。本町〕と呼んだ。「安永風土記書出」の村名由来に『往古当村ノ内熊谷ト申ス所ニ宮十有之候ヲ以テトミヤト申候由文字ニモ十宮ト書キ申候由ニ御座候処何時ノ頃ニ御座候ヤ文字モ相改メ富谷村ト書キ申候由伝候当時ハ宮モ山王ノ宮バカリ相残り申候事』とある。

注(3) 「仙台鹿の子」に『鹿の子清水は片平小路南留りより米か袋へ下り口の小坂の辺をいふ坂の北脇に鹿の子清水とて清水あり』。

資料 仙台方言考（真山青果）

仙台の方言（土井八枝）

自伝的仙台弁（石川鈴子）

全国方言辞典（東条 操編）